

未来づくり懇談会（土屋）会議録

日 時：平成29年8月8日（火）

18：30～19：39

場 所：土屋自治公民館

出席者：市長、教育長、総合政策部長、
都市整備課長

1 開 会 18：30 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

○国道4号の整備について

・資料に基づいて整備案等を説明

国道4号の整備については、国の直轄事業となるので、具体的には国土交通省宇都宮国道工事事務所が行うので、市としては把握している情報の提供のみ。

矢板ICから土屋の旧道と交わる区間までを「矢板拡幅」区間と言われていて、新規事業化として決定している。土屋の旧道と交わるところから、那須塩原市二区の交差点までの区間については、一部をパイパス、一部を拡幅することで方向性としては承認されている段階なので、正式な事業化をされたものではない。

今後、国が事業化する際には、より詳細なルート案が示され説明会等が開催されると思うが、現段階では未定。市では国に対しては、整備促進、早期事業実施のお願いをしている。

Q1 昭和49年頃に高架橋の案があったと思うがどうなったのか。

A1 現時点のルート案では現道の拡幅ではなく箒川を渡る橋をもう一個架けるパイパス整備するということは確定されている。どこからどこまでというのは現時点では示されていない。

5 意見交換

Q1 矢板市で工事を行う際の工期の設定について、行政のやり方では何月何日から何月何日までと設定した日から、しばらく経って最終日付近にバタバタとやる傾向がある。着手しないから長く伸びるのであって、そんなに日にちは必要ではないと思う。民間会社のやるような方法でやってほしい。

A1 工事が始まるまでに業者との打ち合わせや確認などの期間が必要。実際に気にされているのは工事に入る時期だと思う。持ち帰って状況を確認する。誤解を招

かないような掲示や標示はさせて頂きたい。

公共工事は標準的な工期が定められており、実際に現場に着手するまでに、効率よく、近隣住民も工事作業員も安全に工事を施工するための準備が欠かせないためご理解願います。

Q 2 当地区の道路は他の地区に比べ比較的狭い。朝晩、大田原方面から矢板へ行くので交通が多い。また4号の抜け道として利用する人が多い。待避所を1台ではなく3~4台置けるようにしてほしい。

A 2 4号線より南側だと思うが、指摘の通り行き来する車両が多い。よく現地も見させて頂いて、限られた予算の中で対応をしていきたい。交通量が多いのは国道4号によるもので、抜本的な解決は一刻も早く国道4号のバイパス化を開通させること。

平成30年 土屋3号線に待避所設置。

平成31年 土屋・沢2号線に待避所設置予定。

Q 3 土屋は高齢化率が四捨五入して40%にもなる。道路の話も大切だが。土屋では4歳が最年少。高齢化対策について具体的に市ではどのように対策をするのか。また、人口流出について、中、片岡の市営住宅の空きが結構ある。高齢化するばかりで若い人が入ってこない。

A 3 地方創生の考え方には二通りある。克服戦略と適応戦略である。克服戦略は、人口減少や高齢化社会の進行を食い止め、人口を増やす方向に持っていけないかという考え方。適応戦略とは、人口減少や高齢化の進行をやむを得ないものとして、それに対応できる地域社会を作るという考え方。

土屋だけでなく全国の地方自治体で高齢化が進んでいる。市の高齢化率は現在29.4%だが、40%くらいまで上がると予測されている。そうした中で高齢社会にどのように即した地域社会が作れるかを真剣に考えなければならない。公営住宅の活用については、ご指摘の通り中市営住宅等には空き部屋が目立っている。高齢者が利用するにも中市営住宅にはエレベーターがない。そのため上の階ほど空いている傾向がある。

Q 4 駅舎が氏家も変わった、宝積寺も変わった。矢板だけが建物も周辺も何も変わらない。そのため若い人が戻ってこない。古いままにしておくのが売りにしているなら、大々的に売り出してほしい。

A 4 東口については比較的早くに整備をされたが、西口の整備の必要性も感じる。ただ、中心市街地は公団混乱地域になっているので土地利用がしにくい。まずは駅西側で地籍調査を実施し、境界をはっきりさせ、公団を整理していく。

Q 5 年金から引かれる税金が多く困っている。みんな国や地方のために大なり小なり功績を残したのに厳しい。やめてもらいたい。

A 5 年金から引いているのは市だけでなく国の制度もある。矢板市の判断だけで

きることはない。

Q 6 何年も前から要望しているが、荒井に抜ける道（赤坂）の整備を実現して頂きたい。矢板市北部地区の開発について。大きなスーパーを誘致するなどできないか。メインとなるものがあれば泉地区も利用するのではないか。

A 6 赤坂については、平成8年8月28日付で、土屋行政区と山田行政区から要望があった。予算的な問題もあるが、国道4号バイパスが決まってから、市道をどのようにつなげていくかということのを改めて考えていかななくてはならない。

荒井行政区からは県道矢板・那須線への直結道路の新設のご提案を頂いた。これができるスマートICと4号バイパスがつながることになる。遠大な計画ではあるが、セットで、より高めていく道路を検討していかなければならない。お店の件については、土屋～荒井、土屋～山田の道路ネットワークができれば、利便性が高まり、商業施設の新設などの土地利用してみようということになるのでは。